

2020年4月12日

(株) ジャパンリスクソリューション

新型コロナウイルス感染者、死亡者に関する現状分析
先進15ヶ国比較を中心に【1】(4月11日現在)

<利用データ>

読売新聞朝刊「主な国・地域での新型コロナウイルスの感染状況」(毎日掲載)

厚生労働省、各自治体、WHO、米ジョンズ・ホプキンス大学、フランス政府公表の統計等

上記データにもとづき新型コロナウイルスの感染状況の国際比較を行った。比較した国々は先進国15ヶ国(欧米諸国、日本、韓国)である。統計的に不安のある中国とロシアは参考にとどめた。

1. 先進15ヶ国のデータ比較

分析表は別添【表1】【表2】にまとめたが、現時点で結論的に以下のことが観察される。

(1) 国別の感染者数では、日本が最も少ない

比較した15か国中感染者数が最も多いのは米国の46万6,396人、最少は日本の**6,180人**。米国、スペイン、イタリア、ドイツ、フランスの順に多い。

感染者の捕捉率が日本の場合検査人数が少ないので低いのではないかと、としばしば評論されるが、この点については、各国がどのように検査対象を選び、どのような手法で検査をしているのかが判然とせず、共通の物差しとなるのか疑問であり、現時点では特にこれを問題とはしない。

(2) 国別の感染者比率(人口千人当たり)は、日本が最も低い

各国の人口千人当たりの感染者比率を見ると、スペインが3.39人とトップになる。続いてスイス2.88人、イタリア2.42人、ベルギー2.35、オーストリア1.54人となる。感染者数トップの米国は、1.45人と7位に下がる。感染者数の絶対数のみならずその国の人口を勘案することも必要である。日本は**0.05人**と最も少なくなっている。仮に日本が米国並みの感染者比率になるとすれば、約18万人の感染者を出すことになる(スペイン並みなら約42万人、イタリア並みなら約30万人)。なお、韓国は日本の4.2倍の感染者率となっている。

(3) 国別の死者数では、日本が最も少ない

死者が最も多いのはイタリアの18,279人、次いで米国16,703人、スペイン15,843人、

フランス 12,210 人、英国 7,978 人と続く。日本は 121 人と最も少ない。

圧倒的に上位を占めているのは欧州諸国（EU 加盟国及び英国）である。おそらく互いの国境をなくし、人と物の出入りが自由になっていることと関係が深いものと思われる。ほとんど日本では報道されないので意識されていないが、欧州においては、スペインやイタリアのみならず、ベルギー、フランス、オランダ、スイスなど多くの感染者を出しており、後述の人口 10 万人当たりの死亡率も高い。欧州を国境なき 1 つの国と見なすと、米国よりも人数は多くなる。おそらく欧州全体が非常に動揺しているものと考えられる。日本はこれらの国々と桁違いの低さとなっている。感染者数が少ないこと、死者数が少ないこととは国際比較したときの日本の特徴である。

日本が低い理由について、これまでのところ納得のいく説明はなされていないが、死亡者数の多寡はそれぞれの国の衛生環境や医療インフラ、国民の日常生活における衛生慣習等とも深くかかわっているのではないかと思われる。

（４）国別の死亡者比率（人口 10 万人当たり）では、日本が最も低い

各国の人口 10 万人当たりの死亡者率は、スペインが 34.183 と最も高く、スペイン、イタリア 30.757、ベルギー 26.580、フランス 18.866、オランダ 14.782 と続く。スペインは上記（２）の感染者比率もトップとなっている。一方、死亡者数が最大の米国は、5.184 と 9 位となる。日本は 0.095 と最も低い。韓国は日本の 4.3 倍となっている。

欧州諸国はみな高く、最低のドイツでも 3.183 人と日本の 33 倍以上ある。もし、日本が最悪のスペインと同じレベルの死亡者率になるとすれば、死亡者は約 4 万 3,500 人、イタリアと同じなら約 3 万 9,000 人、米国と同じなら約 6,600 人となる。

2. 考察

新型コロナの感染状況に関し、人口対比の感染者比率、死亡者比率が EU 諸国で高いことから人とももの往来の活発さがウィルスの蔓延と関係が深いということが推論される。同じ EU 内でも比率の高低の差は、医療インフラ、衛生習慣、伝染予防措置の程度等が影響しているものと考えられる。

また、【表 1】にあるように、東南アジア諸国の感染状況は現在のところ低いですが、今後ともこの傾向が続くのかは予断を許さない。また、アフリカ、南米、アジアで数値が公表されていない国々もあり、これらの国々にも今後注視していく必要がある。

日本が国際的に相対的に低い理由

日本が先進諸国中最も低い、しかも桁違いに低い理由であるが、巷間さまざまな理由が説明されている中で、国民の清潔好きは無視できない要因と思われる。

- ・ 日本人の多くは、毎日外出後手洗い、うがいの習慣を持っている。
- ・ 毎日風呂に入る。
- ・ 下着を毎日交換する。

これらは、日本人は当然のこととしているが、諸外国では必ずしもそのような習慣を持っているわけではない。特に清潔好きを保証するのは清浄な水の豊富な存在であるが、これが外国では必ずしも当然とはなっていない。かつて「日本人は“水と安全保障”はただと考えている」と言われたが、いまでも国際的に見て稀有な環境にあることは変わっていない。

また、戦国時代に渡来したスペインやポルトガルの宣教師達は、当時の日本人の清潔さに驚いている。同様に江戸末期に来た欧米人も同様の印象を記している。日本人は歴史的にも清潔が定着している民族といえる。

- ・宣教師ルイス・フロイス、1563年に長崎に上陸して当時の日本を記して、「かつて私が見た中で最も清潔かつ爽快にして優雅である。ポルトガルや全インドにも、精巧、清潔、優雅の点でこれらに並びうる家屋を見た覚えがない」
- ・タウンゼント・ハリス、1856年8月に下田に赴任し、近くの姉崎の村の様子を見て、「姉崎は小さくて貧寒な漁村であるが、住民の身なりはさっぱりしていて、態度は丁寧である。世界のあらゆる国で貧乏にいつも付き物になっている不潔さというものが少しも見られない。彼らの家屋は必要なだけの清潔さを保っている」と日記に記している。

次に医療インフラも国際的に見て、格段に充実している。昨今評論家や医事研究者等は日本の医療が崩壊寸前と言ってみたり、対コロナ医療対策をあげつらうばかりの傾向があるが、世界各国が手探りでさまざまな対処策をとっている現状を考えると、過早なことは現時点では言えないであろう。むしろ、日本の現在の医療体制の“異質さ”を踏まえた冷静な論議が必要と思われる。日本の医療は少なくとも先進諸国と比較して以下のような大きな特徴がある。

- ・ 体調不調を感じてその日に医師の所に行っても、予約がなくても必ず診てもらえる。
- ・ どの医者、病院に行くかは本人の自由である。
- ・ 国民皆保険の思想のもと健康保険のおかげで医療費が安い。

欧米では、予約なしでは診察してもらえない、かかりつけの医師が決まっており、まずここに行かないと別の病院等を紹介してもらえない、医療費が自由診療でバカ高いなど普通である。米国ではオバマ前大統領が健康保険にチャレンジしたが、基本的に、個人が支払う医療費が医療の質と比例しているから、貧乏な人はろくな治療を受けられない。日本の健康保険料は決して安くはないが、これは税金との兼ね合いで見ることがある（例えば消費税。25%：デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、24%：フィンランド、ギリシャ、アイスランド、22%：イタリア、20%：オーストリア、フランス、イギリス・・・）。

このような国民が気軽に利用できる医療インフラの存在が、新型コロナウイルスの拡散状況に関し諸国との違いにつながっていることは間違いないであろう。

3. 今後の展開

今後新型コロナウイルス禍がさらに拡大していくのか、あるいは収束方向に向かうのか

Japan Risk Solution

は現時点では誰にも分からないところであるが、歴史家ニール・ファーガソン（スタンフォード大学フーバー研究所上級研究員。「憎悪の世紀」「マネーの進化史」などの著書あり）が述べていることが、当面の結論といえよう。

「感染の帰趨は断言できませんが、歴史上の世界的疫病に照らして三つのことが言えます。

(1) 最悪の被害に遭うのは貧しい地です。

今は、米欧の深刻な状況が耳目を驚かせていますが、いずれアフリカ、南米などの貧しい国々を襲うこととなります。

(2) 疫病は必ず終息します。

医学の進歩も手伝い、治療法とワクチンは確実に見つかる。私は 1 年以内と見なしています。

(3) 世界の景気は後退します。

感染拡大を抑える緊急措置の一環としての減産や生産停止に伴う影響です。ただ、感染の第 2 波が来なければ、年末には回復の兆しが見えるのではないか。」

(日本経済新聞 2020 年 4 月 12 日朝刊)

ファーガソン氏は、いずれアフリカや南米（おそらくアジア諸国も）に感染が広がると予想しているが、至極もつともな指摘である。この時間差を考えると、来年 7 月に延期開催が決まった東京オリンピックも果たしてどうなのかという疑いも出てくる。

以上